

CONTEMPORARY JAPANESE CRAFTS

休館日/月曜(ただし9月20日、11月22日・29日は開館) 振替休館日は9月21日 開館時間/10:00-17:00(最終入館16:30)
入館料/一般900円(800円)、高大生500円(400円)、中学生以下無料、障害者手帳をお持ちの方300円 ※()内:20名以上の団体
主催/アサヒビール 大山崎山荘美術館、朝日新聞社 後援/京都府、大山崎町、大山崎町教育委員会、京都新聞、エフエム京都
協賛/竹中工務店 展覧会公式サイト <https://wakozecca.exhibit.jp>

2021
9/18
Sat.
12/20
Sun.

和工絶佳展

わこうぜつか

開館25周年記念

令和時代の

Reinterpretation,
Exquisite
Craftsmanship,
and
Aesthetic Exploration

超工芸



Asahi アサヒビール 大山崎山荘美術館

鎧鼻則幸 (Heel-less Shoes) 2014年 個人蔵
Photo by Kenji Takahashi ©2021 NORITAKA TATEHANA K.K.

館鼻則孝
Tachana Noritaka

桑田卓郎
Kuwata Takuro

深堀隆介
Fukahori Ritsuke

池田晃将
Ikeda Terumasa

見附正康
Mitsuke Masayasu

山本茜
Yamamoto Akane

高橋賢悟
Takahashi Kenjo

桑田卓郎
(茶碗)
2015年
個人蔵



Photo by Kenji Takahashi
©2021 Takuro Kuwata

目を奪われるのは、派手な色彩と
意思をもっているかのような装飾
伝統的な茶碗の上に、
新たな生命が噴出し、躍動する

深堀隆介
(金魚酒名伽琳)
2016年
個人蔵



のぞくと表れるのは、幽玄の世界
描かれる金魚は、夢か現か幻か

日本の伝統文化に根ざした工芸美

山本茜
(截金硝子香合「無我」)
2016年
個人蔵

悠久の時の流れや人の情
はかなく脆い美しさは、
小さなガラス空間の中で永遠に



©T. MINAMOTO

池田晃将
(電光十進玉箱)
2019年
個人蔵

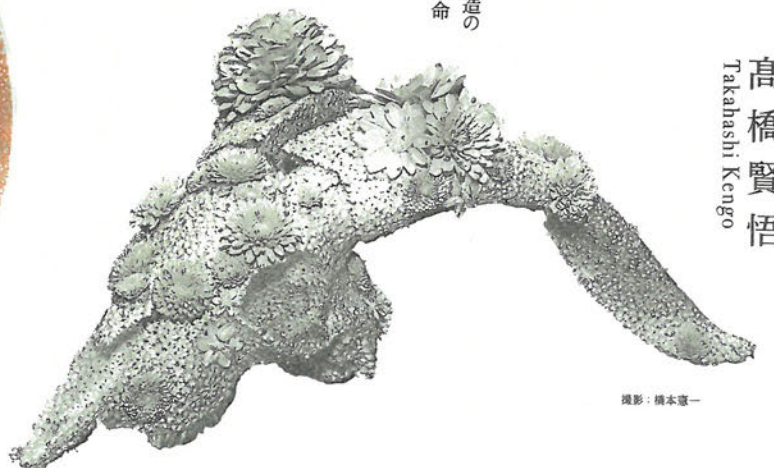
螺鈿と時絵の装飾で彩られた、
極小デジタルの迷宮
古よりの漆工技術と
21世紀の感性との競演に、
眩惑される



手わざの限界のその先にある工芸美

高橋賢悟
(Flower funeral-goat)
2016年
個人蔵

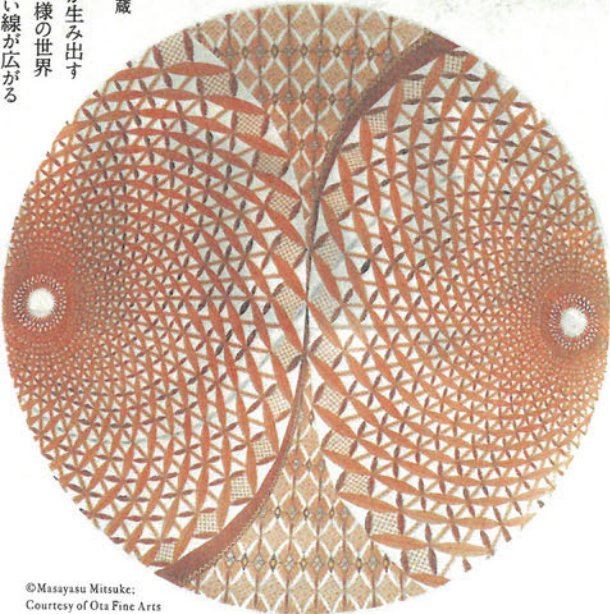
真空加圧鑄造の技術で
生み出される、超極薄鑄造の
アルミニウムからなる花と生命
かつて命の灯を燃やした
ものたちの鎮魂を願ひ、
手向けられる



撮影：橋本竜一

見附正康
(無題)
2019年
オオタフインアーツ蔵

赤絵細描の絵付師が生み出す
エキゾチックな細密文様の世界
九谷焼の磁肌に美しい線が広がる



©Masayasu Mitsuke.
Courtesy of Ota Fine Arts

和

巧

グローバル時代をむかえ、私たちをとりまく物の均質化が進むなか、日本各地で育まれてきた工芸や手仕事が独自の表現を生み出す資源として見直されています。工芸というジャンルにとらわれることなく、素材を用い、技法を駆使して工芸美を探求する本展の出品作家の取り組みは、人と物との関係を問い直すとともに、手仕事の可能性の広がりを予感させます。本展覧会では、日本の美意識に根ざした工芸的な作品によって、いま最も注目されている1970年以降に生まれた作家12人を紹介します。展覧会名の「和巧絶佳」は、現在の日本における工芸的な作品の三つの傾向——日本の伝統文化の価値を問い直す「和」の美、手わざの極致に挑む「巧」の美、工芸素材の美の可能性を探る「絶佳」——を組み合わせた言葉です。この展覧会は、現在の日本の工芸の新しい兆候を示すだけでなく、これまで受け継がれてきた日本の手仕事の可能性を考える機会となることでしょう。

This exhibition features 12 craft artists who were born in the 1970s or later, the generation that now attracts the most attention of art audiences. These artists create craftworks based on the Japanese sense of beauty. The current age of globalization has triggered both the homogenization of various objects around us and our reaction to it, providing increased momentum for the reevaluation of craftwork traditions preserved around Japan as a resource for artists who aim to create unique artistic expressions. The artists featured in this exhibition are not bound by the conventional framework of craft. Their pursuit of the beauty of craft through the best use of materials and their own skills is not only an endeavor to reconsider relationships between humans and objects but also a sign of new possibilities for craftsmanship. The subtitle of the exhibition represents three trends observed in contemporary Japanese crafts: the “reinterpretation” of the Japanese sense of beauty and traditional Japanese culture, “exquisite craftsmanship,” and “aesthetic exploration” of materials. We hope that the exhibition, which heralds a new age of Japanese crafts, will provide you with an opportunity to consider emerging possibilities for long-preserved Japanese craftsmanship.

新里明士
Niisato Akio

坂井直樹
Sakai Naoki

安達大悟
Adachi Daigo

橋本千毅
Hashimoto Chitaka

佐合道子
Sago Michiko



新里明士
〈光器〉
2016年
Yuuka Kikunake Gallery蔵
全面に透かし彫りされた「虫手」が生み出す光と空間の魔法
薄い磁肌一面に穴を穿たれた器の周りで、繊細さと強靱さが拮抗する



佐合道子
〈とこしえ〉
2019年
作家蔵
陶による「いきものらしさ」の探求
いきものが持つ有機的なしくみを造形で引き出す、多様なわざの世界

写真提供：池田ひらく

橋本千毅
〈花蝶螺細時絵箱〉
2018年
個人蔵
時絵と螺細の細工が織りなす
玉虫色の小宇宙
漆工にまつわるあらゆる素材と技術の探求で、手のひら上に美が具現化される

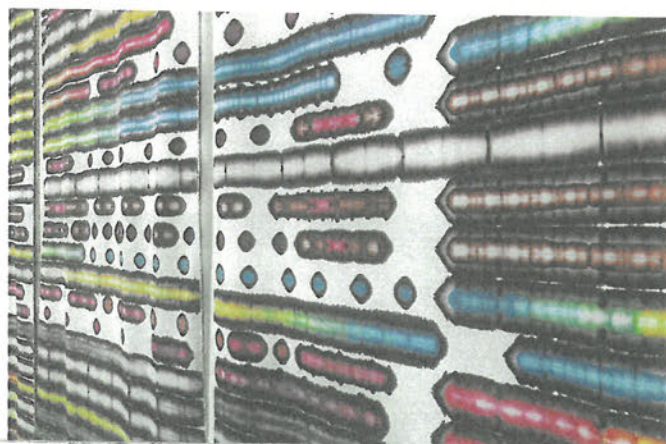


坂井直樹
〈湯のこもるカタチ〉
2019年
作家蔵

1枚の鉄板から鍍金の技法で生みだされる金工作品
ひと槌、ひと槌とふるわれる金槌から、侘び寂びがカタチとなつ表れる



安達大悟
〈つながる、ときれる、くりかえす〉
2020年
作家蔵
板染め絞りの技法による「にじみ」のテキスタイル
有機的ながらデジタル画像をも彷彿とさせる
デザインは、綿密な計算と実験から生まれる



絶佳

素材が生み出す工芸美の可能性

1 講演会

「日本古来の文化をみなおし、未来を紡ぐ“リシンク”」

ゲスト/館鼻則孝氏(本展出品作家)

日時/10月3日(日) 10:30-12:00

定員/50名、要申込(先着順)

参加費/無料

会場は美術館ではありません

2 対談会

京都を拠点に活躍する山本茜氏と、本展を監修された木田拓也氏に
展覧会や作品制作などについてお話いただきます

ゲスト/山本茜氏

(本展出品作家)

木田拓也氏

(本展監修者、武蔵野美術大学教授)

日時/10月24日(日) 14:00-15:30

定員/50名、要申込(先着順)

参加費/無料

会場は美術館ではありません

会場/1、2ともに大山崎ふるさとセンター 京都府乙訓郡大山崎町字大山崎小字竜光3[阪急大山崎駅から徒歩1分、JR山崎駅から徒歩3分]

1、2の申込方法

返信可能なFAXまたは往復はがきでお申し込みください

宛先/(FAX)075-957-3126

(往復はがき)〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町銭原5-3
アサヒビール大山崎山荘美術館 イベント係宛

記載事項/①イベント番号・日時②参加者全員分の氏名
以下は代表者のみ③住所④電話番号⑤FAX番号

※申込は1回につき2名様まで

※対象は中学生以上

※往復はがきの場合1は9月26日、2は10月17日必着

※電話・メールによる受付はいたしません

※定員に達し次第、当館ウェブサイトでお知らせいたします

3 ヒールレスシューズ試着体験会

米国歌手のレディー・ガガも愛用するヒールレスシューズ

本イベントのために館鼻則孝氏が特別に制作した
ヒールレスシューズを履いて、記念写真を撮ろう!

日時/第1回 10月3日(日) 14:00-15:00

第2回 10月16日(土) 10:30-11:30

第3回 10月16日(土) 14:30-15:30

第4回 11月3日(水) 10:30-11:30

第5回 11月3日(水) 14:30-15:30



館鼻則孝
(Heel-less Shoes)

定員/各回10名、要申込(先着順)

対象者/準備する靴が履ける方(靴のサイズはおおよそ23-26cm)

参加費/無料、ただし美術館入館料は別途必要

会場/当館地中館通路

3の申込方法

ウェブサイトからお申し込みください

宛先/www.asahibeer-oyamazaki.com/r/01/



記載事項/①参加希望回・日時②氏名③靴のサイズ④住所⑤電話番号
⑥メールアドレス

※申込は1回につき1名様まで

※参加可否は、お申込日から1週間以内に、当館よりメールでご連絡します

※ab.oyamazaki@gmail.comからのメールを受信できるよう設定してください

※試着時用の清潔な靴下を必ずご持参ください。感染症予防のため、

靴下をご持参されない場合には試着できませんので、予めご了承ください

※記念撮影用のカメラ、スマートフォン等をご持参ください

撮影は当館スタッフが行います

※作品にダメージが出た場合や試着が危険と判断した場合には、やむを得ず

中止する場合がございます

※試着から撮影までお一人様あたり約5分を予定しています

※電話・はがきによる受付はいたしません

※定員に達し次第、当館ウェブサイトでお知らせいたします

常設展示

館蔵品からクロード・モネの《睡蓮》を
ご覧いただけます



《睡蓮》1914-17年 当館蔵

カフェ企画

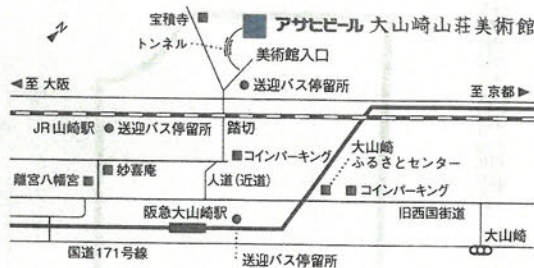
リーガロイヤルホテル京都による
特製オリジナルスイーツを提供いたします

期間/展覧会会期中

会場/当館喫茶室

協力/リーガロイヤルホテル京都

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、
掲載内容が変更となる場合がございます。
最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください



JR山崎駅、または阪急大山崎駅より徒歩約10分

・JR山崎駅前、阪急大山崎駅前より、高齢の方優先の無料送迎バスを運行しております

・美術館に駐車場はございません。JR線踏切脇または大山崎ふるさとセンター隣のコインパーキングをご利用ください

〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町銭原5-3 TEL:075-957-3123(総合案内) <https://www.asahibeer-oyamazaki.com>

